

様式第1号

会 議 録

会 議 の 名 称	平成28年度 第2回 所沢市環境審議会
開 催 日 時	平成28年8月31日(水) 10:00~11:30
開 催 場 所	市庁舎 高層棟6階 604会議室
出席者の氏名	田中充、秋元智子、足立圭子、上田マリノ 松山謙一、北田律子、永島裕久
欠席者の氏名	毛利吉成、天野正博
説明者の職・氏名	
議 題	1 開 会 2 会長あいさつ 3 議 事 (1) 第2期所沢市環境基本計画 改訂版に掲げる環境施策の実績報告 について (2) 環境配慮行動について (3) その他 4 閉 会
会 議 資 料	・ 次第 ・ 資料1-1 第2期所沢市環境基本計画 改訂版の達成状況 について ・ 資料1-2 環境基本計画指標項目一覧 ・ 資料2-1 環境配慮行動のまとめ方について ・ 資料2-2 環境配慮行動について
担 当 部 課 名	環境クリーン部 部 長 越阪部 孝夫 次 長 大澤 稔 まちごとエコタウン企画担当参事 小高 大輔 環境政策課 課 長 大館 真哉 主 幹 安藤 善雄 主 査 矢沢 信男 主 事 溝越 弘倫 環境クリーン部環境政策課 電話 04-2998-9133

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
安藤主幹	開会・あいさつ
会 長	<あいさつ>
マチエコ担当参事	<あいさつ>
安藤主幹	出席者が全委員の過半数に達しているため、審議会規定により会議の成立を確認。 傍聴者はなし。
事務局	<資料1-1及び1-2に基づいて、第2期所沢市環境基本計画 改訂版に掲げる環境施策の平成27年度における実績について報告>
会 長	資料1-1については、分野ごとの達成状況の一覧表が左側に記載しており、右側に分野ごとの概評が整理されている。ご説明いただいたのは、分野ごとの状況である。指標ごとの具体的な達成状況や数値については、資料1-2に記載がある。
委 員	達成率は指標の個数の達成率という理解で良いのか。
事務局	その通りである。
委 員	資料1-2の3ページ目にある、No.50の「特定外来生物（アライグマ）の捕獲件数」について、目指す方向性が「減少」となっているが、正しいのか。「増加」ではないのか。
大館課長	資料の誤りで、正しくは「維持」である。
会 長	基本計画では、「11件以上捕獲をする」というのが年度別の目標である。
委 員	ハクビシンは入らないのか。
大館課長	県の事業とリンクしており、計画改定の際、ハクビシンについての指標として設定することは難しかったという背景がある。

委員	指標の中に「温室効果ガス排出量の削減率」があるが、集計方法については、実行計画に基づいているのか。
大館課長	その通りである。
委員	算定の際の電力の排出係数は一定か。
大館課長	国の指針に基づいて変動型で算出しているが、参考として固定型でも把握をしている。
委員	<p>達成状況について、全体のトレンドは埼玉県と一緒の傾向である。若干異なるのは、温室効果ガスの排出量で、埼玉県の傾向として、平成25年度は排出係数の増加に伴い、排出量は増加しているが、平成26年度及び平成27年度は横ばい、もしくは若干の減少傾向にある。</p> <p>多くの指標項目が達成しているにもかかわらず、温室効果ガスが増え続けている要因としては何か考えられるか。</p>
大館課長	平成26年度の排出係数が増加していることが大きな要因。電気使用量等は減少しており、排出係数を固定して温室効果ガスを算出すると減少している。
会長	昨年度の温室効果ガスの排出量は、現在、集計中であり、目標は「未達成」としているため、達成率の変動がある可能性がある。
委員	指標項目「市域における温室効果ガス排出量の削減率」は市内の排出量（区域施策編）を計算しているのか。
大館課長	<p>その通りである。</p> <p>実行計画においては、「事務事業編」と「区域施策編」を策定している。平成26年度の状況は、「事務事業編」については計画通り進捗しており、順調に減少している。要因としては、排出量の多かった浄化センターの閉鎖などの機構改革が挙げられる。「区域施策編」については排出係数の問題もあり、達成が難しい状況にある。</p>
会長	<p>指標項目の No, 11「市役所の活動に伴う温室効果ガス排出量の削減率」が事務事業編にあたる。</p> <p>一覧を見て気になるのは、前年度に比べ大きく下がった分野であり、</p>

	<p>(4)の「健康で安心して暮らせる環境を守るまち」や(6)の「みんなで環境づくりに参加するまち」については、大きく下がっているので、分析と共に具体的な対策を講じてほしい。</p> <p>今回のこの実績データは、このあと作成する環境基本計画の年次報告書においてのベースとなる。</p>
事務局	<p>＜資料2-1、2-2に基づいて事務局より説明＞</p>
会長	<p>今後、枠組みの変更や、項目の追加や削除は可能であり、今回の資料は経過資料ということである。</p> <p>最終答申では、行動項目を整理し、市民のみなさんに実際に行動をしていただくための意識付けをしていこうといった内容である。</p> <p>資料2-1において、全体の枠組みが整理されているが、区分としては「外出」、「住宅」、「買い物」、「家での過ごし方」、「学習」、「みどり」、「ごみ」となっており、市民生活を想定して整理している。</p> <p>対象区分については、新しく整理をしたものになるが、「一般」と「こども」の2つに分けており、この区分の方法についても議論をしていきたい。</p> <p>効果については、二酸化炭素の削減効果や、経済効果などについて具体的に提示をしていく。</p> <p>また、市が行っている支援策や新規に取り組む支援策も含めて整理をしていく。</p> <p>全体的な枠組みは以上である。</p> <p>まずは枠組みについてのご意見をいただいたのち、個別の内容について議論をしていきたい。</p>
委員	<p>二酸化炭素削減量を記載するという事は、温暖化対策に重点を置くということだと認識した。</p> <p>夏に比べて冬の方が二酸化炭素排出量が多いので、暖房や給湯の使い方など冬の過ごし方にポイントを置いた項目立てはどうか。</p>
委員	<p>「一般」と「こども」の区分について、「こども」のみの項目は少ないので、すべて一般で良いのではないか。</p>
会長	<p>「一般とこどもを、あえて分ける必要はないのではないか」といったご意見が出たがいかがか。</p>

委員	<p>最終的なアウトプットによると思う。おそらくパンフレットなどを大人用とこども用の2種類作成するものだと思うので、個人的には事務局案の区分に違和感はない。</p>
委員	<p>学校では残さず食べるための努力をしており、学校給食の残飯はかつてほど多くない。食品ロスについての項目は別立てではなく統一して、対象を「一般」と「こども」にした方が良いのではないかと。</p>
会長	<p>これまで、対象区分は一緒に良いのではないかとのご意見と、こどもに直接届きやすいので分けた方が効果的ではないかとのご意見が出た。</p> <p>前半と後半に分け、具体的な項目を見ながら議論を進めていきたい。</p>
委員	<p>二酸化炭素の表記は「二酸化炭素」か「CO2」のどちらかに統一した方が良い。また、温室効果ガスの削減量や経済効果などの試算についても、「年間あたり」などで統一した方が分かりやすい。</p> <p>「効果」については、削減できる二酸化炭素がどのくらいの量で、どれほどの効果があるのかなどを、具体的にイメージできるような工夫をした方が良い。</p> <p>節約金額は一般の方には分かりやすくして良いと思う。</p>
大館課長	<p>前回会議でも「自分たちの取組みが地球環境にどのように貢献しているのかについて分かりやすくする必要がある」といったご意見をいただいているので、工夫をしていきたい。</p>
委員	<p>配慮行動による効果として、数字で表されているのは良い。</p> <p>一つのアイデアとして、配慮行動に積極的に取り組む家庭と取り組まない家庭とを比較し、削減できる二酸化炭素量や経済効果などを比べるというのは、他の自治体でも行っていないので面白いのではないかと。また、温室効果ガスの問題は、一人ひとりの行動は効果として小さいが、トータルで見ると大きい。全世帯が配慮行動に取り組むことによって、市域の二酸化炭素排出量がどれほど削減できるかなどを表現すると、伝わりやすいのではないかと。</p> <p>「住宅の新築・改築編」について、効果の欄に具体的な数値が書かれていない。太陽光発電システムの設置などによりどれほど二酸化炭素が削減できるかは、導入した機器等により異なるので、具体的な表現ができないのが理由であると思う。そうであれば、埼玉エコタウンプ</p>

	<p>プロジェクトを行っているので、実証実験の数値を使用するのはいかがか。</p> <p>会 長</p> <p>効果の数値はしっかりと出した方が良い。太陽光発電設備の導入などは、仮定を置けば算出は可能であると思う。</p> <p>また、配慮行動を積み上げた理想的なエコ人の割合で、市域の温室効果ガスの削減量を算出するなど、総計で算出することで、市として取組みの効果が分かりやすくなり、行動する意味がマクロにとらえられるのではないか。</p> <p>委 員</p> <p>アウトプットについてのご意見が先ほどあったが、こども向けの配慮行動を冊子で渡すのでは、普及が図れないと思う。例えば冊子を切り取ってカードゲームにできる形式など、アウトプットの部分を工夫することで、配慮行動の効果的な普及方策になるのではないか。</p> <p>現在記載のあるものはキャッチコピーとしては不十分。例えば「みどりのマスターが教えるこどもの心を育む次世代教育」など、人を動かす言葉が必要である。</p> <p>会 長</p> <p>今のご意見は、「こども向けについては、カードゲームのような遊び心が必要なのではないか。」また、「項目の表現ぶりについて、人を動かすような言葉などの工夫が必要である。」といったものである。</p> <p>委 員</p> <p>所沢の市民は、自主的な市民が多いので、配慮行動を市民の方々から応募するというのはいかがか。</p> <p>委 員</p> <p>行政のPRには限界があり、公募を実施しても応募数が少ないといった懸念があるので、配慮行動を公募するのはなかなか難しい。しかし、配慮行動のアピールも兼ねて、キャッチコピーの公募であれば、市民参加型にもなり、可能ではないか。</p> <p>委 員</p> <p>健幸マイレージは市民参加型であり、市が市民のデータ取りを簡単に行っているという点で成功している。</p> <p>食品ロスに係る配慮行動について、「食べ残しをしない」という点に違和感がある。得たものを無理に食べるという方向性ではなく、必要なものを必要なだけ買うという教育が必要なのではないか。必要以上なものを手に取る習慣がわたしたちにはあると思う。</p>
--	---

<p>会 長</p>	<p>これまで、具体的な環境配慮行動の項目から、配慮行動の普及方策まで、広範囲のご意見が出た。審議会としての最終答申では、今まで出たご意見の論点を整理して、記載していきたい。</p> <p>食品ロスに係る配慮行動については、「ロス」という結果を招かないような行動をすることを促した方が良いのではないかといい、 「Reduce (減量)」についての項目も必要ではないかとのご意見もあった。</p>
<p>委 員</p>	<p>運用改善と機器の買い換えについての項目がある。多額の投資を行うことで削減効果のあるものと、日々の運用で削減効果のあるものが混在しているので、色分けなどの工夫があると良いのではないかと。</p>
<p>会 長</p>	<p>健幸マイレージについてのご意見の概意は、市民のデータが市ヘフィードバックされ、データが蓄積するような仕組みづくりを考えてはどうかといったことであるように思う。多くの市では、シート等に記入してもらいポイントを付与するような事業は行っているが、継続できていない。</p>
<p>大館課長</p>	<p>前回の会議でも普及方策についてのご意見をいただいた。</p> <p>啓発ツールの必要性を感じており、現在考えているのは、省エネデーやエコファミリー大賞に替わるもので、ご家庭等にエコ活動を宣言してもらおうような事業を検討している。</p>
<p>委 員</p>	<p>各家庭のエネルギー使用状況をすべて把握し、一定の評価をするのは難しい。全世帯のエネルギー使用量のデータを集積できるのが理想形ではあるが、行政の活動には制約があるため、現実を勘案してできることに取組んでいければ良いのではないかと。</p>
<p>委 員</p>	<p>現在考えている「環境配慮行動」は啓発であり、実質的に温室効果ガスを削減できる施策も必要ではないかと。</p>
<p>委 員</p>	<p>興味を持って、実行しようと思ってもらおう市民を増やすことも必要。子どもたちに興味を持ってもらえれば、配慮行動に結び付くと思う。</p> <p>また、学校から出る枝や枯れ葉等の有効活用についてなど、学校のエコのレベルアップになる項目の追加をすべき。</p>

<p>会 長</p>	<p>当審議会の役割としては、市民の行動変革のための方策を考案するというものである。市から市民への一方通行の普及啓発ではなく、市民から市へフィードバックされ、具体的な削減量としてカウントできるような仕組みづくりも必要ではないか。</p> <p>個別の配慮行動の意見を伺うには時間がないので、今後、各委員へ個別のヒアリングを行ってはどうか。</p> <p>本日の会議では、いくつかご意見が出たので、事務局にて整理をし、まとめたものに対して、各委員のご意見を伺うようなスケジュールでよろしいか。</p>
<p>大館課長</p>	<p>本日のご意見をまとめた後、10月から11月にかけて各個人のご意見のヒアリングを実施させていただきたい。</p>
<p>会 長</p>	<p>もう一つの大事な論点として、審議会としては「最終答申」という形でまとめるが、市としての最終的なアウトプットは、市民に対しどのように提示をするのが重要になってくる。</p>
<p>大館課長</p>	<p>当初、一般用と子ども用のパンフレットを作成することを考えていたが、カードゲーム形式にするといったご意見もあったので、どのような形式にするかは、事務局にて検討したい。</p>
<p>会 長</p>	<p>次回の審議会では、具体的な配慮行動とそれに付随する答申書について審議をすることになると思う。</p>
<p>安藤主幹</p>	<p><まとめ></p> <p>閉会</p>